

2024 年 8 月 8 日
2024 年 12 月期 第 2 四半期決算 カンファレンスコール 説明要旨

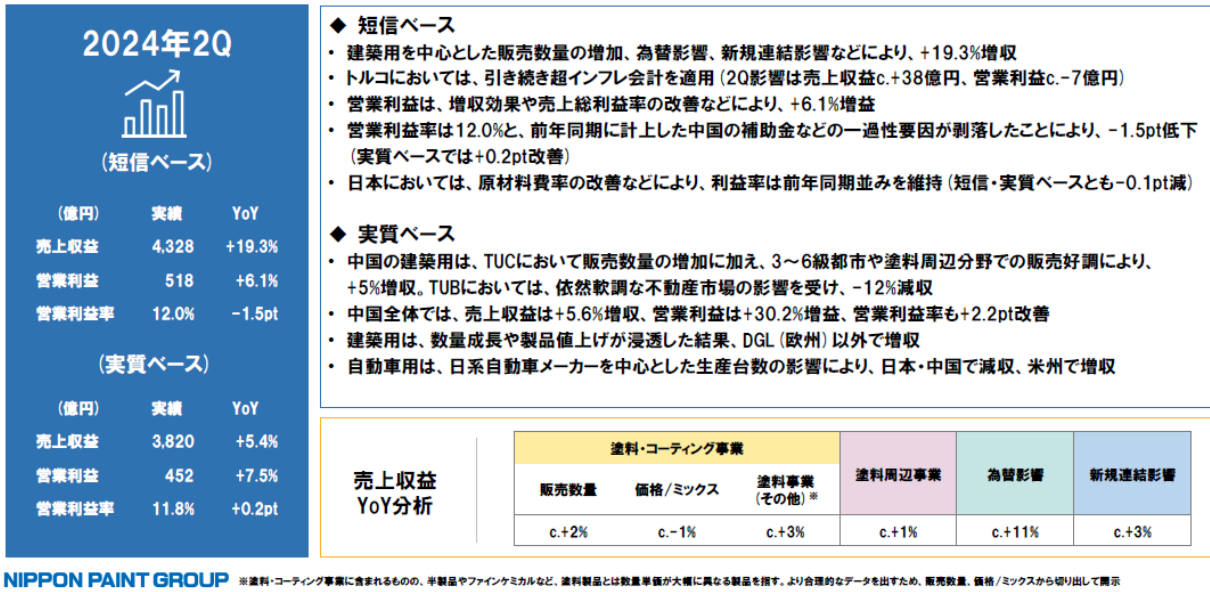


皆様こんにちは。日本ペイントホールディングス共同社長の若月です。
本日はご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、2024 年第 2 四半期決算の概要についてご説明いたします。

なお、今回は第 2 四半期の決算説明会となるため、マスコミの方々にもご参加いただいています。

1. 2024年第2四半期の決算概況～増収・増益・マージン改善（実質ベース）～



2024年第2四半期の決算概況についてご説明いたします。

短信ベースでは、売上収益は前年同期比 19.3%増の 4,328 億円、営業利益は前年同期比 6.1%増の 518 億円と、引き続き大幅な増収増益となりました。売上収益の分析は説明資料の下段にある通り、塗料事業の販売数量、塗料周辺事業、為替影響、新規連結影響がプラスに貢献した一方、価格/ミックスは若干のマイナスとなりました。

実質ベースでは、売上収益は 5.4%増収、営業利益は 7.5%増益となりました。実質ベースにおいては、2023 年に買収したイタリアの NPT、2024 年にクロージングしたカザフスタンの Alina がともに含まれていないため、これらを加えれば、為替影響を抜いたベースで約 8%強の売上成長となります。NIPSEA 中国の建築用は、TUC が厳しい市場環境の中でも 5%の増収、TUB は 12%の減収となりましたが、塗料周辺分野も伸長した結果、NIPSEA 中国全体では、実質ベースで売上収益は 5.6%増収、営業利益は 30.2%増益となり、マージンも改善しています。

第 1 四半期の決算発表において、「基本的には当初計画並みか、計画をやや上回る推移」と申し上げましたが、第 2 四半期においても同様の認識であり、さらに上期では為替影響の恩恵もあって、非常に好調な決算であったと考えています。

2. 2024年通期見通しについて(1)

◆ 上期概要

- ・ 売上収益は、地域・事業によってまちまち（NIPSEA中国のTUCでやや下振れ、米州自動車用で上振れなど）ではあるものの、全体としては想定通り。なお、短信ベースでは、為替が円安に推移したことで上振れ
- ・ 営業利益は、中国における引当金計上などの特殊要因もなく、想定通りに推移。なお、短信ベースでは、売上収益と同様に上振れ
- ・ 営業利益率も、コストコントロールの徹底により、ほぼ想定通り。なお、日本やNIPSEA中国、DGL（太平洋）などの利益率は想定よりも上振れ

◆ 下期見通し

- ・ 新規連結予定のインド2事業（NPI・BNPA）は、1Q決算（5月15日）時に発表したクロージング時期の見込み変更に伴い、損益の取り込み開始時期は2025年を想定（2月期初予想では下期の取り込みを想定）
- ・ 原材料費率や販管費を引き続きコントロールすることで、NIPSEA中国、NIPSEA中国以外、DuluxGroupなどでマージンの維持・改善を見込む
- ・ 原材料市況は比較的安定

◆ 通期見通し

- ・ 2月期初予想を維持。為替の動向は注視

NIPPON PAINT GROUP

4

2024年の通期ガイダンスを見直すかどうかは、ギリギリまで検討を重ねたものの、結論としては、直近の為替変動幅があまりに大きいことから、今回は見直しをせず、期初ガイダンスを維持しています。

上期においては、順調な事業成長とマージン改善がしっかりと見て取れたことに加え、為替が想定以上に円安に推移した一方で、現時点では下期の為替を見通すのは困難と判断しました。

なお、第1四半期の決算発表と併せてお伝えしたインド事業のクロージングの遅延も、円安によって補って余りあると考えていた貢献分が、少し見通しにくくなってきたことから、これらを総合的に勘案し、今時点では期初ガイダンスを維持することにしました。この前提としては、期初にインド事業で想定していた約300億円弱の売上収益、約20億円弱の営業利益の剥落を考慮した上で、期初ガイダンスを維持していることを付言します。

既にご案内済みではありますが、当社は輸出産業ではなく、地産地消ビジネスの集合体となり、基本的には為替の変動は一部原材料コストに影響を与えるものの、換算率の変動であることから、ビジネスの実態を把握いただくには現地通貨ベースの動向をご覧いただくのが良いと考えます。

2. 2024年通期見通しについて (2)

(億円)		2023年実績 (短債ベース)		2024年見通し(現地通貨ベース)				
				2月発表		直近の見通し		
		売上収益	営業利益率	YoY (売上収益)	YoY ^{※1} (営業利益率)	YoY (売上収益)	YoY ^{※1} (営業利益率)	YoY (営業利益率) vs 2月予想
日本	セグメント合計	2,015	9.5%	+0~5%	→	▼ ±0%前後	→	Inline
	自動車用	421		-5%前後		▼ -10%前後		
	汎用	485		+5~10%		▼ +0~5%		
	工業用	397		+5%前後		▼ +0~5%		
NIPSEA 中国	セグメント合計	4,827	12.5%	+5~10%	→	+5~10%	→	Slightly above
	汎用 (TUC)	4,082 ^{※2}		+15%前後		▼ +10~15%		
	汎用 (TUB)			+0~5%		▼ -5%前後		
	自動車用	504		+5%前後		▼ +0~5%		
NIPSEA 中国以外	セグメント合計	2,888	17.4%	+10~15%	→	+10~15%	→	Slightly above
	マレーシアグループ シンガポールグループ タイグループ			+5~10%	→	+5~10%	→	Slightly above
	PT Nipsea (インドネシア)	609	32.9%	+5~10%	→	▼ +0~5%	→	Slightly below
	Betek Boya (トルコ)	752	10.9%	+15%前後	→	▲ +30%前後	↘	Below
	Alina (カザフスタン)	229 ^{※3}	20.2% ^{※3}	+5~10%	→	+5~10%	→	Slightly above

NIPPON PAINT GROUP ※1 ↑: +2%以上, ↓: +1~2%, →: -1~+1%, ↘: -1~+2%, ↓: -2%以上 ※2 「その他」含む ※3 プロフェーマ債(未監査)

5

2. 2024年通期見通しについて (3)

(億円)		2023年実績 (短債ベース)		2024年見通し(現地通貨ベース)				
				2月発表		直近の見通し		
		売上収益	営業利益率	YoY (売上収益)	YoY ^{※1} (営業利益率)	YoY (売上収益)	YoY ^{※1} (営業利益率)	YoY (営業利益率) vs 2月予想
DuluxGroup	セグメント合計	3,604	9.6%	+10%前後	→	▼ +5~10%	→	Slightly above
	DGL (太平洋)	2,225	12.8%	+10%前後	→	▼ +5~10%	→	Slightly above
	DGL (欧州)	1,379	4.4%	+10%前後	↗	▼ +5~10%	↗	Slightly below
米州	セグメント合計	1,092	6.5%	+5%前後	→	+5%前後	→	Slightly below
	自動車用	409		+0~5%		+0~5%		
	汎用	664		+5~10%		+5~10%		

NIPPON PAINT GROUP ※1 ↑: +2%以上, ↓: +1~2%, →: -1~+1%, ↘: -1~+2%, ↓: -2%以上

6

以上を踏まえ、説明資料 P5-6 において、2024 年 2 月にお伝えした現地通貨ベースの売上成長率とマージンの動向について、あくまで通年ベースにはなりますが、直近の見通しとしてアップデートしています。

直近の見通しとしては、売上成長率はトルコを除いてやや下向きの修正が多いように見て取れるかも知れませんが、基本的には NIPSEA 中国の TUB などを除いては増収率を若干修正した程度であり、大きな変動はありません。NIPSEA 中国の TUC についても「15%増収」から「10~15%増収」に修正した一方で、マージンは若干の

改善を見込んでいます。従前申し上げている通り、市場シェア向上のみを無理に追求するのではなく、成長と収益の両立をしっかりと目指していきます。

3. 原材料市況・当社状況

地域・原材料で価格にばらつきがあり、原材料費率の大きな変動は見込まず

2024年2Q

- 中東情勢の緊張感が継続、米国政策金利の引き下げを見越した原油需要増への期待感、余剰資金による投機資金の流入などを背景に、原油・ナフサスポット価格ともに2024年3月末に比べて5%上昇
- 中国の原材料価格は、やや軟化傾向にあるものの、比較的安定
- 国内では、化学メーカーによる採算は正値上げ、諸経費上昇転嫁の姿勢が常態化しており、依然として価格上昇基調が継続
- そうした中、当社の売上総利益率は、前年同期比で+0.2pt改善（前四半期比では-0.6pt低下）

◆ 売上総利益率

2022年1Q	2022年2Q	2022年3Q	2022年4Q	2022年通期
37.6%	36.1%	37.0%	38.4%	37.2%
2023年1Q	2023年2Q	2023年3Q	2023年4Q	2023年通期
39.3%	40.0%	39.7%	40.6%	39.9%
2024年1Q	2024年2Q	前年同期比	前四半期比	
40.8%	40.2%	+0.2pt	-0.6pt	

2024年3Q以降

- 7月末時点の原油価格は6月末に比べて4%下落（ナフサスポット価格は同-10.5%低下）
- 中国では、経済の弱含みや消費者信頼感の低下を背景に原材料価格は安定的に推移する見通し
- 国内では、原油下落、円高進行に伴い、ナフサ価格も上昇一辺倒とはいえない状況となっており、継続しての注視が必要
- 当社としては、地域や原材料によって価格にばらつきがあるため、全体としては原材料費率の大きな変動は見込まず

NIPPON PAINT GROUP

7

4. 市況・事業環境

		日本	NIPSEA中国	DGL (太平洋)	DGL (欧州)	米州
2024年 第2四半期	自動車	⇒	⇩			⇩
	建 築	⇒	⇩ TUC	⇒	⇒	⇒
2024年 第3四半期 見通し	自動車					
	建 築		TUC			
2024年 通期 見通し	自動車					
	建 築		TUC			

■ 市況 (前年同期比)

■ 好調 ■ ■ ■ ■ 軟調

■ 事業況 (市場対比) ※

⇩ アウトパフォーム ⇒ インライン ⇩ アンダーパフォーム

※当社推定

NIPPON PAINT GROUP

8

原材料市況については全般的に安定的な推移を見込んでおり、市況・事業環境についてはヒートマップの通りです。

中国自動車用においては、日系自動車メーカーの苦戦が引き続き続いており、当社は市場対比で少しシェアを落としていると認識しています。

5. 主要セグメントの決算概況

(億円)		短信ベース		実質ベース		概要
		2024年 2Q	YoY	2024年 2Q	YoY	
日本	売上収益	508	+1.0%	502	-0.2%	自動車用、汎用、工業用で引き続き市況の影響を受けたものの、製品値上げの浸透などが進み、前年並み
	営業利益	53	+0.4%	52	-1.6%	売上総利益率や販管費率の大きな変動なく、前年並み
NIPSEA 中国	売上収益	1,504	+16.8%	1,356	+5.6%	軟調な不動産市場の影響を受けたTUBの販売減も、3～6級都市や塗料周辺分野が好調なTUCがけん引し、増収
	営業利益	180	+1.9%	157	+30.2%	増収効果や販管費の抑制により、増益
NIPSEA 中国 以外	売上収益	917	+38.5%	750	+13.4%	マレーシアグループやシンガポールグループ、Betek Boyaなどの伸張により、増収
	営業利益	143	+12.8%	118	-7.5%	増収効果も、Betek Boyaにおけるインフレに伴う販管費の増加により、減益
DGL (太平洋)	売上収益	621	+18.3%	546	+4.0%	既存事業は軟調な市況に影響を受けたものの、現地で実施した小規模な事業買収により、増収
	営業利益	75	-4.3%	67	+1.9%	インフレに伴う販管費の増加も、増収効果や売上総利益率の改善により、増益
DGL (欧州)	売上収益	432	+18.5%	360	-1.4%	南中欧諸国で販売が伸びたものの、フランスの販売数量減や製品ミックスの影響により、減収
	営業利益	39	+16.0%	34	+0.7%	減収影響やインフレに伴う販管費の増加も、売上総利益率の改善により、前年並み
米州	売上収益	346	+21.3%	305	+7.1%	自動車用と汎用の販売好調により、増収
	営業利益	36	+34.9%	32	+19.0%	汎用において北カリフォルニアで投資額が増えたものの、自動車用における増収効果や製品値上げの浸透に伴う原材料費率の改善により、増益

NIPPON PAINT GROUP

※統合後社が撤退した店舗跡地に5月までに17店舗の開業が完了。コストが先行するものの、下期以降の業績寄与を見込む

9

主要セグメントについての決算概況をご説明しますが、詳細は質疑に委ねます。

1. 日本セグメントについては、第1四半期に続いて自動車用において自動車生産台数が減少したことに加え、汎用、工業用ともに市況は引き続き厳しく、販売数量の低下を製品値上げなどで取り戻している構図です。船舶用は引き続き好調で、日本セグメント全体では売上収益、営業利益ともに前年同期比ほぼ横ばいとなっています。
2. NIPSEA 中国については、先ほど申し上げた通りです。実質ベースのマージンは、2023年に引当金を追加計上した分を考慮しても改善しており、成長と収益の両立がしっかりできている結果となっています。
3. NIPSEA 中国以外のアジアにおいては、引き続き高成長を達成、マージンも高いものの、トルコで発生しているインフレ、超インフレ会計の適用によって数字は若干暴れており、マージンの低下もトルコの影響が大きくなっています。トルコを除いた売上成長率は約6%となり、各地で政治情勢などの不安定さはあるものの、概ね想定通りとなっています。インドネシアについては、第1四半期よりは回復したものの、経済環境は楽観できないと考えており、下期にはさまざまな挽回施策を講じていく計画です。カザフスタンのAlinaについても、約20%の営業利益率で貢献しています。
4. DuluxGroupにおいては、太平洋、欧州ともに市況が厳しい中、太平洋においては塗料周辺分野での小規模買収の寄与もあり、4%の売上成長、マージンもほぼ横ばいとなりました。市況の底打ちと併せて、下期には基幹ブランドの刷新などもあり、相応の成長は可能と見込んでいます。欧州においては引き続きフランスの市況

が厳しく、残念ながら減収となりました。ただし、市場シェアは少し上昇していると推定しており、直近ではやや市場の底打ち感が出てきています。

5. 米州においては、自動車用において自動車生産台数がほぼ横ばいながら、日系自動車メーカーを中心に好調だったこともあり、8.6%の増収となりました。汎用においては市況が厳しめながらもプラス成長を確保しています。特にカリフォルニア州北部で競合他社が倒産により撤退した跡地において、5月までに合計17の新店舗開設を完了しており、今後徐々に収益貢献してくると見込んでいます。なお、こうした新店舗の開設は、事業承継でも買収でもなく、競合他社の撤退跡地に Dunn-Edwards が店舗を新規開設している点を申し添えておきます。

6. 主なトピックス

「統合報告書2024」を発行（7月31日公開）



- ・「アセット・アsembler」としてのプラットフォームの優位性を生かし、短期的にはもちろん、長期的に「EPSの最大化」を追求していく当社ストーリーを重要情報を厳密に選別しながら体系的に制作
- ・MSVを支える「人的資本」の重要性や優位性についても、さまざまな切り口から説明
- ・資本市場からの注目度が高い「株価を意識した経営」や「PERの最大化」に向けた考え方」「ROICに対する考え方」などについて、これまでよりも踏み込んで具体的に解説
- ・ガバナンス対談では、大株主ウツラムグループの代表でもあるゴー会長と中村筆頭独立社外取締役が「真にMSVを追求するコーポレート・ガバナンスに向けて」と題して意見を交換
- ・「統合報告書2024」オンライン説明会を9月5日（木曜日）15:00～16:00に開催予定



NIPPON PAINT GROUP

10

主なトピックスとして、「統合報告書 2024」の発行をお伝えいたします。

基本的には4月4日に発表した「中期経営方針」を踏襲した内容となっており、「ROICに対する考え方」などでこれまで以上に踏み込んで解説しているほか、ゴー会長と中村筆頭独立社外取締役によるガバナンス対談なども掲載しています。従来にも増して読み応えのある統合報告書が、2023年度版よりも2ヵ月早く公開できましたので、ぜひご覧ください。

「統合報告書 2024」オンライン説明会についても、9月5日（木曜日）に開催予定ですので、ぜひご参加ください。

以上、あまりサプライズがある決算ではないかも知れませんが、各地域で進める健全なる成長、マージン確保への施策が十分に実ってきていると考えています。経済環境は楽観視すべきではないものの、地域によっては改善の兆しが見えてきている中、期初ガイダンスは当然ながら必達として、それをさらに上回るべく取り組んでいます。第3四半期決算において必要に応じてアップデートする予定です。

以上、ご静聴ありがとうございました。